

施策評価シート

評価年度	令和元年度	事業実施年度	平成30年度	施策主管次長名	政策推進部次長 清水 創一	
施策番号	67	施策名	連携と友好のきずなで築くまち		総合計画掲載頁	106
関係課名	産業課、学校教育課、スポーツ課、議事課					

1. 施策の概要

施策の目的	対象	対象指標名	単位	H29実績	H30計画	H30実績	H31計画	総計目標	
意 図	市民	人口	人	61,070	61,356	61,153	61,604	-	
				交流事業による交流回数					
				交流事業へのみよし市民参加者数					
				交流事業によるみよし市への来訪者数					
		友好都市との交流が重要だと思ふ市民の割合							

2. 成果指標

指標	成果指標名	単位	H29計画	H29実績	H30計画	H30実績	H31計画	総計目標
	交流事業による交流回数	回	15	14	15	12	15	10
	指標設定の考え方と把握方法	交流事業の活性化を判断するため、交流事業の実施回数を担当課から把握						
	交流事業への市民参加者数	人	250	312	250	280	250	-
	指標設定の考え方と把握方法	交流事業への関心の高さを判断するため、交流事業への参加者数を担当課から把握						
	交流事業による来訪者数	人	200	142	200	130	200	-
	指標設定の考え方と把握方法	交流事業への関心の高さを判断するため、交流事業への参加者数を担当課から把握						
	友好都市交流が重要だと思ふ市民	%	63	48.5	63	47.4	63	-
	指標設定の考え方と把握方法	「行政評価アンケート」で友好都市交流を「重要」及び「やや重要」とした市民の割合						

3. 施策の評価

項目	評価のコメント				
施策の成果向上に向けての市民と行政の役割分担	市民	友好都市の自然環境や文化に触れることで視野を広げ、相互理解と将来のみよし市のまちづくり・人づくりを担う。			
	行政	友好都市との相互連携を築くと共に、幅広い視野をもつ機会を提供する。			
達成度評価	近隣との比較	近隣市町とは、友好交流に対する考え方や交流の相手方も違うため、比較することができない。			
	過去3年間の実績との比較	平成30年度は、区長等の公職者の交流や小学生のスポーツ交流など安定した交流が行われた他、ふるさと交流事業として2団体が土別市を訪問したり、木曾町三岳地区住民有志の来訪があったりと、双方の住民の自主的な交流が活発に行われた。			
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 行政が主催する交流事業には参加定員の制約などがあるため、記念的な事業がなければ大幅な交流機会や交流人口の増加は見込めないが、土別市とは小学生の安定した交流が継続していることから、現状に大きな課題はない。 一方の木曾町は、いいじゃんまつりの踊りの担い手不足から平成27年度を最後に参加を中止している。 今後は既存の事業や木曾町宿泊助成券の利用等を契機とした住民の往来や、愛知用水を縁とする市町の歴史を学ぶ郷土学習により、友好都市としての親近感を醸成し、自主的な交流がより活発に行われるようにする必要がある。 				
課題を踏まえた今後の取組の方向性	<p>(今後の取組の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内友好都市交流として、スポーツ交流や人材交流、産業フェスタへの相互出展などの産業交流が発展継続できるよう支援する。 土別市：小学生の教育・スポーツ分野での交流、産業フェスタなどの産業交流、各種団体の往来や文化協会作品等の自主的交流、職員の人材交流 木曾町：産業フェスタへのブース出店や宿泊助成等の産業交流、各種団体の研修や友好の森ふれあいツアー等の交流 				
市民意識	重要度	低い	満足度	低い	平成30年度市民アンケート調査による